



埼玉県議会 9月定例会

TOPIC

1977年生まれ
香蘭女学校・早稲田大学政治経済学部卒業
1男2女(20.18.16歳)の母
防災士
民主改革さいたま市議団
元政務調査員
2023年4月 さいたま市浦和区より県議会議員トップ当選

9月25日から10月16日まで9月定例会が開かれ、
知事から提出された議案13件、議員から提出された議案11件を可決しました。
以下、議案だけではなく県政の重要ニュースをお伝えします。


令和5年度決算

約350億円の黒字

歳入(2兆2,088億)のポイント
個人県民税の増収、地方交付税の増額

歳出(2兆1,667億)のポイント
新型コロナウイルス感染症対策にかかる経費は減少、介護保険事業費の増加

埼玉県の財政は、実質公債費比率10.8%、将来負担比率151.9%と、地方自治体の財政状態を判断するいくつかの指標において「健全」であることが示されています。


用語の説明など詳しくはこちら▶ 

「埼玉県子ども・若者基本条例」

可決

国が定めた「こども基本法」に則り、議員提案でつくられたこの条例は、全会一致で可決されました。こどもたちの権利を守り、彼らにとって最善の道を考え、保護者・養育者も幸せに過ごせる環境を整備し、社会全体で子育てを支えていくことを目指しています。

条例を具現化するため、県でも「埼玉県子ども・若者計画(仮称)」がつくられ、現在県民コメント(意見募集)を行っています。

12月24日まで 

詳しくはこちら▶

順天堂大学病院

誘致断念


さいたま市緑区浦和美園に開院予定であった順天堂大学病院が、建設費高騰などの理由で計画を断念することに。順天堂大学病院から県内の医師不足地域に医師派遣数を段階的に増やしてもらう構想は今後の協議次第となり、県としても医師確保策を練り直す必要ができました。

他県の取組みも参考にし、私も医師・看護師不足の解決方法を提案していきます。

県立高校の共学化について▶「教育委員会が主体的に進めていく」

苦情処理委員会に寄せられた1件の申出「埼玉県立の男子高校が女子が女子であることを理由に入学を拒んでいる事」から始まった検討。県教育委員会は、県内に12校ある別学を主体的に共学化していくという結論を出しました。一方で、男女問わず多様な選択肢を残していくという見解も示しており、共学化に向けた具体的なスケジュールは未定です。少子化や教育環境の活性化も考慮すると県立高校の再編は避けられませんが、将来を担う埼玉県のすべての子どもたちが、望めば得られる教育環境を整備するべく、私も当事者から話を聞き、ご納得いただける解決策を模索しています。

のもれいの報告

企画財政委員会では、補正予算案1件について質疑し、行政課題報告「窓口収納におけるキャッシュレス化推進」について議論しました。 [質疑の様子はこちら▶](#) 

また、地方創生・行財政改革特別委員会では、地方財源の確保対策などについて質疑しました。東京一極集中の弊害は隣り合っている埼玉県にも大きな影響を与えています。国の政策に頼るばかりでなく、企業誘致やスタートアップ支援も含め、県独自に税収を増やす努力をしていかなければなりません。 [質疑の様子はこちら▶](#) 